

Car Goods Tasting

まとめ：中井 隆
写真：前田恵介／和南城勝美

フロントおよびリヤバンパーに装着された超音波センサーで障害物までの距離を感知。車内に設置されたディスプレイやアラームなどで知らせてくれるパーキングセンサー。純正装備ではお馴染みの電装アイテムだが、後付けでも配線作業を簡略化したOBDII接続タイプがツーフィットから登場。実際、簡単に取り付けられるのか？ 検証してみた。

合計4個のセンサーで フロントの障害物を検知

ToFit
**OBDII連動
フロントパーキングセンサー
距離表示&ブザータイプ**
46-0236

予価：3万2780円
☎ ツーフィット ☎ 045-253-7945
<http://www.to-fit.co.jp/>

車速が1～15km/hの時に作動し、計4個の超音波センサーがフロントの障害物を検知。8段階のLED表示およびアラーム音で危険を知らせてくれる。配線接続はOBDII接続で電源および信号線を供給。基本的にコネクタ接続のみで配線を行える。



コネクタ接続のみの簡単配線を実現した OBDII連動フロントパーキングセンサー

2009年以降登録車なら
ほとんどに取り付け可能

フロントやリヤバンパー内に埋め込まれた複数個の超音波センサーで障害物までの距離を感知。その情報を車内のLED表示やアラーム音などで知らせてくれるパーキングセンサーは、新車の純正装備としては馴染み深い。後付けでは意外と少ない。

ツーフィットでは以前より、アルミテーパーセンサーの採用によりバンパーへの穴開けが不要なバックセンサーや、リヤカメラ一体型のバックセンサーなど、ユニークなパーキングセンサーをリリースしているが、このたび新たに発売されたのが、OBDII接続タイプのフロントパーキングセンサーだ。

電源やブレーキ信号線、速度信号線などの複雑な配線作業を、OBDII接続により簡略化。基本的にはコネクタを差し込むだけで配線作業は完了するという、電装DIYは少々苦手という人にもオススメできるアイテムなのだ。2009年以降の国

産車および2010年以降の外国車ならほとんどの車種に対応。また非OBDII車用のコネクタも付属している。多少配線に手間は掛かるものの、2009年以前の車種にも取り付けは可能だ。

実際の装着では、バンパーへのセンサー取り付けのための穴開け作業やバンパーの脱着、センサーケーブルの車内への引き込みなどが必要になるが、配線接続は基本的にコネクタ接続のみ。配線が簡単というよりは、ミスのない確実な配線を実現している点、大きなセールスポイントと言えよう。

基本的に走行中の操作は不要で、時速15km以下になると作動。センサーは約120cmの障害物から感知をスタート。LED表示にはその距離が表示され、近くなるほどアラームの断続音が早くなり30cm以下になると連続音で危険域と知らせてくれるのだ。もちろん実際使用するときには目視による確認は必須だが、フロントバンパーと電柱や駐車車両との距離等々、安全運転をサポートするアイテムとして心強い。

取り付け作業をシミュレーション



⑤ 薄型のディスプレイユニットはメーターユニット手前に設置しても、各計器類の視認性をしっかり確保。



④ 白色センサーは塗装も可能。車体同色で目立ちにくくできる。センサーは4個付属しているが、フロントコーナー左右に1個ずつでもOK。



③ バンパーにセンサーを取り付けるための穴を開ける「ホルソー」が付属。電動ドリルに取り付けて穴開け作業を行う。



② 配線はメインユニットに各コネクタを差し込むだけの簡単さ。配線ミスを最小限に防いでくれるのだ。



① 電源および信号線はOBDIIにカプラーを差し込むだけでメインユニットに供給。車両からの配線を探す作業を大幅に削減している。